

## 2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所属	社会学部	社会	学科
担当科目	エリアスタディ概論		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

エリアスタディ概論は社会学、人類学の研究-他者を見る見方がどのように変化してきたかということが主題の授業です。なので、学説史的な側面もあり、毎回ボリュームのある授業でした。そして、ただ説明を聞いて覚えるのではなくその時代に象徴的な論文を読むことが大事、という先生の方針がありました。なので、(社会学科の必修科目ということもあり) ほぼ毎回論文の要約の課題がありました。社会学科のなかではかなり大変な授業だったと思います。

TAの仕事はこの提出された要約の中に変なものがないか(特に友達の要約をコピーペーストしたもの)をチェックし結果を先生に報告するという仕事でした。チェックといっても登録人数が120人ほどもいる授業なのでそのなかからズルをしている人を探し出すのはちょっと大変です。始めの頃はひとりひとりの要約を読むので精一杯で、それからさらに同じものがないか確認していく作業がしんどかったです。やり方も色々模索しながらの作業でした。

1. 全てをプリントアウトする
2. 段落構成が似ているものでグループ分けをする
3. 要約をざっと流して読んでいき、いくつかのキーワードがでてきたら印をつけていく
4. 段落構成が似ていてキーワードが出てくる箇所も似ているものを分ける
5. そのなかから同じものがないかチェックしていく

というやり方に落ち着きましたが(もっと他に良いやり方があったのかもしれませんが)結果としてコピーペーストは見つかりませんでした。なんだかTAとしては残念、というより悔しいような気持ちです。もしかしたら巧妙なコピペがあったのかもしれませんが、個人的には巧妙なものは可ということにしました。

この授業での仕事は上記のようなチェック作業が主なので、授業への参加は必須ではありませんでしたが、わたしはもう一度授業の復習がしたい、という思いが強かったので毎回簡単な授業補助をしながら出席しました。そして、TAの仕事の一番の魅力もここにあるな、と感じました。4回生になった今だからこそ、授業を聞いての理解や興味がとても深まりましたし、卒論の準備として参考になることもたくさんありました。今回のTAの仕事は何よりも自分のためになったと思っています。秋学期もぜひまたやりたいです。

<今後のチューターまたは先生への提案>

今回わたしが担当した仕事はTA業務のなかでは特殊な方だったのかもしれないのですが、反省としては、先生が最後に提出課題を確認するときに、一覧表のようなわかりやすい形で何かを示すものをつくったらもっと先生の手助けになったなと思いました。コピペを探すだけでなく提出、未提出の確認などもやればよかった、と思いました。

授業中では、学外からこられる先生にもっとTAがついた方が良いのではないかと、思いました。学内の先生は学校や生徒の雰囲気などは分かりきっていることですし、自分の授業のスタイルもあるのであまりTAがすることがない気がします。逆に学外からこられている先生は学校や生徒のことなど知らないことが多く、TAがそういったことを補完していけたらもっと授業環境が良くなるのでは、と思います。ネットのTAのシステムもとても有効に使えると思います。

## 2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所属	社会学部	社会	学科
担当科目	社会調査法、国際社会学		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

私は毎週、社会調査法の授業のチューターをしていました。

授業前にコンピューターの鍵を取りに行き、パソコンの電源を入れるのが最初の仕事です。あとは授業と一緒に聞いて、先生が言ったときに出席カードを配っていました。

出席カードは名前を書くだけのときもありますが、何か先生から課題を提出されたときに、やり方がわからないという学生の間を回って方法を教えたりもしました。

学生たちが最初は何をやるのかわからなくても、きちんと教えればみんな一生懸命やってくれるということがわかりました。またただ聞くだけの授業よりも、自分に与えられた課題をこなす授業のほうが集中力が増し、自分で考える力が身につくように感じました。

私は席の間を歩きながら、鉛筆が止まっている学生に目を配るよう注意しました。手を挙げられないおとなしい学生も授業内容を理解しているか、作業のどの段階にいるのか、気を配りながら回りました。

みんなが私のつたない説明を理解してくれたかはわかりませんが、先生一人だけでは回りきれない学生の指導に少しでも助けになれたと思います。学生も先生には聞きづらいことでも、同じ学生のチューターになら聞けることもあったと思います。

最後に学生のこなした課題や出席カードを机の上に集める仕事をしました。10番ごとに学籍番号順に並べてもらい、それを集めて自宅に出欠をつける仕事です。

e-class に入って出欠確認のページで一人ずつ○か×をつけていきます。間違いがないように細心の注意を配り、学生の数と出席の○の数を数える最終確認も怠りませんでした。

その間にも授業の感想や質問などに目を通し、どこが難しかったのか理解できなかったのかを知ることができました。

私はこのチューターの仕事を通して、授業をする難しさや毎週仕事をするという責任感を学ぶことができました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

今後チューターをする人は、最後まで頑張ってください。

授業内容を更に理解しながら先生とも仲良くなれて、いいことづくめだと思います。面倒なことも途中であるだろうけれど、私は学生や先生や GP の人やいろんな人と話し合えて、とても楽しかったです。

## 2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所属

社会学部

社会

学科

担当科目

社会統計学 1, 国際社会学, エリアスタディ概論

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

### \* 社会統計学

授業に出席し受講生の質問を受ける他、小テストの採点やプリントの印刷をした。

授業では、先生には質問しづらい内容もチューターには質問しやすかったようだったので受講生の役に立てたと思う。

自給をもらって働くという責任感があったので、予習に時間をかけたり教え方を工夫した。

一度履修したもののうろ覚えになっている内容も理解できて自分のためにもなった。

### \* 国際社会学・エリアスタディ概論

業務は受講生から提出されたレポートのなかで他の生徒のものを転載していなかのチェックだった。

国際社会学とエリアスタディ概論の授業には出席していなかったため（授業には出席しなくてもよいということだったので）、国際社会学とエリアスタディ概論のほうは受講生との交流はなかった。

業務に関しては、締め切りを大幅に遅れてしまったので、自覚が足りなかったと思う。

全般的には、まだチューターという仕事が確立しておらず、先生もチューターをどう使うか試行錯誤している状態だという印象を受けた。

チューターは院生のTAと違い、受講生と一緒に自分も理解を深めていく立場だと思うのだから、学生間ではこの制度が周知されていないようで、院生TAと同じようなものだと考えている学生が多かった。

<今後のチューターまたは先生への提案>

チューターや先生への提案ではないが、チューターを募集する際に仕事内容を明記したほうが良いと思う。国際社会学とエリアスタディ概論の業務は予想とかなり違い、なかなかハードだったので…。

## 2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所属	社会学部	社会	学科
担当科目	「社会統計学」 「教育社会学」		

### <春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

私は「社会統計学」と「教育社会学」の2つの教科のチューターを行いました。「社会統計学」では、授業で使うプリントの印刷、配布、授業中教室を巡回しての質問対応などを主に行いました。昨年とった授業ではあるのですが、忘れていたところも多々あったため、授業中の質問に答えられるよう、事前に予習をして授業にのぞみました。その回で使用するプリントを、事前に先生がメールで送ってくださっていたので、役に立ち、ありがたかったです。授業中の質問は、最初は聞かれることが少なかったのですが、だんだん回を進めるごとに、質問をしてくれる子が増えてきました。統計学は聞いているだけでは分かりづらいと思います。実際に自分で問題を解いて理解をしていく中で、私たちに質問をしてくれて少しでも理解の手助けになったことが良かったと思います。穴埋め形式のプリントなども良かったと思います。授業後には、毎回少しの時間ではありますが、先生とその日の授業の分かりづらかたった点などを話しました。また、チューターリングシステムへも先生がコメントを下さったので、意思疎通がはかれ、より良くしていけたのではないかと思います。

「教育社会学」は授業中に出された問題用紙の回収や鍵の返却を行いました。「社会統計学」に比べ、行うことは少なかったです。この授業では質問などありませんでした。なので授業中は特に行うことがない状態でした。なかなかやることを見つけるのも難しかったです。先生と交流する機会も少なかったなので、もう少し先生との話し合いなどを行い、何かできたら良かったと思います。

### <今後のチューターまたは先生への提案>

チューターのシステムは、先生とチューター、自分以外のチューターの連携があって成り立つものだと思います。なので、まずは、先生とチューターがその授業についてしっかり話す場を設けたほうが良いと思いました。また、授業を生徒が積極的に参加していけるような参加型の授業にしていくと、チューターの役割も増え、生徒もより学習できると思います。

チューターも生徒なので、チューターが授業で分かりづらいところはその授業をとっている生徒も分かりづらいと思います。そのようなところを先生に伝えていくことも私たちチューターの役割だと思います。